

プリローダ

第76号
(NPO 第26号)



【ПРИРОДА】プリローダ＝ロシア語で「自然」という意味をあらわす

発行：令和6年7月1日

むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行うNPO 法人です。

5年ぶりに、やっと植樹活動ができました!!

『ハバロフスクでつながった友好

モンゴル“10億本の植樹運動”参加ツアー』



植物園での植樹後、国立科学アカデミー植物研究所の皆さんと



「10億本植樹運動」参加の証明書

2020年の出発直前にコロナ禍でロシアによる入国禁止令により植林ボランティアツアー inハバロフスクが中止になり、2019年以来5年ぶりに、このたび植林ボランティアツアーを実施することができました！

新しい場所はモンゴルのウランバートルです。未知の土地ではありましたが、行ってみるとハバロフスクとの共通点がいくつも見受けられました。何ととっても郊外の火力発電所から街までパイプで蒸気を送って集中暖房をするシステム。部屋における温度調節は窓を開けること。それから、街並みの古い建物はハバロフスクの建物とよく似ており、市役所に至っては淡い緑色までそっくりの建物でした。ガイドさん曰く「設計図が一緒のせいでしょう。モンゴルは、とにかく独立がたくて、社会主義国になることを条件にソ連の援助で独立しました。その後、ウランバートルの街は第二次世界大戦後のシベリア抑留者によって造られた街です」。ハバロフスクもそうでしたが、なんとウランバートルもそうだったのです。街の中心部のスバートル広場の石畳を歩く際には、抑留者の方々が山から切り出した石で作ったご苦労を思うと、胸に迫るものがありました。

今回の植樹活動のパートナーは、国立科学アカデミーの植物研究所が務めてくださり、増設中の自然植物園で実施し、100本のモンゴルザクラ (*Armeniaca sibirica* (L.) Lam.) を植えました。モンゴル国が2030年までに10億本の植樹キャンペーンを行っており、そのうちの100本にカウントされました。詳細は、山本誠一郎副理事長の報告と佐藤巧新理事の挨拶文をご覧ください。なお、ツアー報告のカラー写真は当協会ホームページに掲載いたします。(安藤栄美)

2024 植林ボランティアツアー in モンゴル 報告

●期 間：2024年5月3日(金)～5月6日(月)

●ガイド：ニンジン ギリヤセド

●参加者：9名+スタッフ3名 計12名

●運転手：バット エルデネ

1日目 5月3日(金)

成田空港にて参加者全員が集まり、チェックイン。搭乗口はロシア行きと同じく一番奥…。MIATモンゴル航空 OM502便で19:15にチンギスハーン国際空港に到着。4時間40分のフライトで、機内食はハバロフスク行きの飛行機より豪華でした。

日本との時差はハバロフスクと同じ1時間で、21時前まで明るかったです。夏は24時頃まで明るいとのこと。空港にて、日本語ガイドのニンジンさんと合流。バット運転手(通称“バギー”さん)のマイクロバスでウランバートル市内のフラワーホテルへ。市内までは新しい高速道路で草原の中を進んでいきます。車窓からは所々に遊牧民のゲルや牛や馬が放牧されていました。

日本の約4倍の国土を持つモンゴルですが、人口は静

岡県より少ない約440万人で世界一人口密度が低い国だとか。ただ、その半数以上はウランバートル市に住み、地下鉄などもないので、みんな車移動。市内は各所で渋滞しており、我々のバスもその中へ。車窓やニンジンさんの解説を聞きつつ、22:10にホテルに到着。次の日の案内をしてすぐ解散・就寝となりました。ホテルは日系ホ



ウランバートル市内のフラワーホテル

テルとのことで非常にキレイでした。到着が遅く利用できませんでしたが、大浴場や世界各国の料理店もありました。

2日目 5月4日(土)

ホテルでビュッフェスタイルの朝食。メニューは日本のホテルとあまり変わらず、モンゴルっぽいものはありませんでした。8:30にロビーに集合し、バスでウランバートル郊外の日本人墓地へ。郊外に行くと、ゲルと一緒に手作りの小屋が立ち並んでいました。ウランバートルに越してきてすぐはマンションに住めず、市の外側にゲルと家を建て、そこで暮らすのだとか。

日本人墓地はモンゴル国内に散らばっていた、大戦中の日本人抑留者のお墓を1カ所に集め吊っている場所で、その歴史を解説する建物と、大きな慰霊碑が建っていました。そこで全員で献花とお参りを行いました。その後はノゴーン・ノール(緑の湖)のサクラ博物館へ。ここは、かつてゴミ捨て場となっていた日本人抑留者が石切りをしていた場所を片付け、公園として開設した場所で、設立者のウルジートグトフさんが片づけの過程で日本人抑留者のことを知り、個人で資料を集め作ったのがサクラ博物館とのこと。博物館の見学をし、4本のモンゴルザクラの植樹をさせて頂きました。



日本人墓地での献花の様子
大きなモニュメント(ハバロフスクのものと似てる)

市内中心部に戻り民族歴史博物館を見学。ニンジンさんの解説でモンゴルの歴史を知ることができました。事前情報で

は恐竜博物館と聞いていたのでちょっと残念…。その後レストランで昼食。ここではモンゴル料理のゴリルタイ・シュル(羊肉のうどん)、ホーショール(羊肉のピロシキ)、ボーズ(羊肉の小籠包)をいただきました。モンゴルでは子どもの家畜は食べないとのことなので、マトンだと思いましたが、臭みは少なく食べやすかったです。また、牛乳茶(牛乳をお茶で割って塩を入れたもの)も白湯スープのようでおいしかったです。夕食まで時間が空くからとホーショールがたくさん出てきてお腹パンパン。

午後にはメインイベントの植樹活動へ。現地植物研究所のスタッフさんたちと100本のモンゴルザクラを自然植物園に植樹しました。事前に穴も掘ってくれており、また、協会の看板や、ファンタ(なつかしい)やお菓子など休憩コーナーも準備してくれて、快

は恐竜博物館と聞いていたのでちょっと残念…。その後レストランで昼食。ここではモンゴル料理のゴリルタイ・シュル(羊肉のうどん)、ホーショール(羊肉のピロシキ)、ボーズ(羊肉の小籠包)をいただきました。モンゴルでは子どもの家畜は食べないとのことなので、マトンだと思いましたが、臭みは少なく食べやすかったです。また、牛乳茶(牛乳をお茶で割って塩を入れたもの)も白湯スープのようでおいしかったです。夕食まで時間が空くからとホーショールがたくさん出てきてお腹パンパン。



サクラ博物館内部
小さなゲルの博物館内に設立者の集めた資料が展示されています



ノゴーンノールでの祈念植樹
ウランバートル市が一望できる高台にあります



植物園での植樹活動／アカデミーの学生さん達と

適に植樹活動ができました。現地スタッフさんに混ざり大学院生3名も参加しており、日本人ボランティア2名に1名のモンゴル人スタッフさんたちがついてくれて、英語で交流をしながら植えました。オチョ研究所長をはじめスタッフの何人かは日本に留学をしたこともあり、また小学校から選択で日本語を学べる（他の授業はすべて英語）ということで、日本語でお話をすることもできました。最後に植物公園内を見学させてもらい、今夜の宿であるゲルキャンプがあるテレルジ地区へ出発。

途中スーパーマーケットで買い出し。スーパー内は2階建ての一方通行で、中国やロシアの他、韓国製の商品も多い印象。モンゴルの通貨は「トゥグルグ」で1円=22〜3トゥグルグです。物価は日本より3割ほど安い印象。

買い出しの後、ここからまた渋滞に…。どうやら道路工事のようで（4月に終わっている予定だったもの）、徐々に流れが悪くなり止まってしまった。対道路であるが、反対車線に出て追い越す車もあり、反対車線も埋まってしまう。さらに歩道まで車が走り出し、最終的に4車線に（笑）。ガイドさんが下りて確認してくれまし



植樹苗木に
付けられた
二次元コード



二次元コードを読み
込んだ画面
樹種や植樹した日付の他、
植林者として協会の
名前も記載されています



植林場所の様子

たが、あと2時間ほどかかるとのことでバギーさんがマイクロバスをなんとか転回し別ルートを目指すことに。ただそちらも渋滞しており、電話で運輸局に確認し、割と流れているというルートから1時間ほど渋滞を超えてレルジへ。最終的に予定から5時間ほど遅れて、23:00過ぎにゲルキャンプへ到着。夕食でほっと一息。この時間でも温かい夕食を出してくれたことには感謝はありませんが、大きな骨付き牛肉と、ボーズ3つなど中々ボリュームで、完食した方は私を含め3名のみ…肝心のゲルの部屋はというと、キレイなトイレにシャワー付きで、ホテルより高級感のあるお部屋でした。ゲルっぽさは少なかったのですが、長い1日を終え、ぐっすりと休むことができました。



ゲルキャンプ
土台はコンクリでしっかりとした作り



宿泊したゲルの内部
ちゃんとしたホテルです！



ゲルキャンプでの夕食
左がモンゴルうどん・中央がボーズ

3日目 5月5日(日)



ゲルキャンプ近くの遊牧民
馬で家畜を追回していました

ようなゲルが並んでいるのが見えました。こちらの朝食もビュッフェスタイルでした。

昨夜遅かったので、ゆっくりと10:00に出発。近くの遊牧民のお宅へお邪魔しました。草原の中、ゲル2つとトイレの小屋が建っていて、日曜日で小学生の息子と親戚の子どもが来ており、周りで元気に遊んでいました。残念

ゲルに打ち付ける雨音で目が覚めました。外に出ると夜は気づきませんでした。左右を岩山に囲まれた中にゲルが立ち並んでいました。対岸の山麓にも同じ

ながらご主人と高校生の息子さんは雨で家畜の作業が遅れて不在でしたが、奥さんから牛乳茶とチーズでおもてなししていただき、お話を聞くことができました。ホテルの近くで電気が使えるので、ゲル内にオーブンなどの電化製品もありました。ゲルの作りは昔から変わらないとのことで、紐のしまい方等の細部にまで、様々な意味が込められていました（おまじないの様な感じ?）。昔からの遊牧民文化の中で「汚水は川に流さない」「大地を傷つけない」「子



お邪魔した遊牧民のゲル
入ると意外と広く感じます。家電もあります！

どもの家畜は食べない」等、自然を大切にする意識は、非常に高いと感じました。馬乳酒の話は皆さん興味深々(笑)。馬乳酒の時期は6月～9月頃とのことで、今回はいただけませんでした。残念…。



亀石での乗馬体験の様子
皆さん気持ちよさそうでした

遊牧民一家とお別れし、今日はテレルジ周辺を観光！まずは「亀石」という、亀の形の大きな岩(そのままですが…)へ。お土産屋さんや、乗馬体験を楽しみました。昼食はテレルジのレストランへ。韓国系の観光施設で、ゲル(風)の建物や、ガラス張りの豪華な施設があり、ブロッコリーのスープやモンゴル風焼きうどん「ツォイワン」をいただきましたが、こちらでもトラブルが…。



チンギスハーン騎馬像
高さ40mで「騎馬像では」世界最大！

料理を待っている間に停電があり、提供が止まってしまいました。レストランの人は慣れている様子で、ハバロフスクみたいに良くある事なのでしょう。民族舞踊の時間もあるので、料理をキャンセルし次に行くことも協議しましたが、バギーさんの「大丈夫！間に合う」との言葉を信じて、焼うどんを食べて行こうとすると、スコールの様な大雨が…。少し収まったところで、みんなで走ってバスへ移動しました。モンゴルでは雨は少ないので、お客さんが来た時に雨が降ると「雨を連れてきてくれた」と歓迎されるとか。昼食後は、チンギスハーンの騎馬像へ。高さ40mで「騎馬像では」世界最大とのこと。像の足元は発掘物の展示やお土産コーナーがあり、エレベーターで地上32mの騎馬の頭の展望台まで行けます。時間もないので男性陣は階段

を待っている間に停電があり、提供が止まってしまいました。レストランの人は慣れている様子で、ハバロフスクみたいに良くある事なのでしょう。

料理を待っている間に停電があり、提供が止まってしまいました。レストランの人は慣れている様子で、ハバロフスクみたいに良くある事なのでしょう。像の足元は発掘物の展示やお土産コーナーがあり、エレベーターで地上32mの騎馬の頭の展望台まで行けます。時間もないので男性陣は階段



民族舞踊コンサート
馬頭琴のオーケストラやホーミーの歌唱などなど

を駆け上り展望台へ。チンギスハーン像のお顔も大迫力で見れました。

バスで再びウランバートル市内へ。バギーさんのおかげで民族舞踊まで1時間ほど時間ができたので、デパートでお買い物。お酒やチョコの他、ニンジンさんオススメの羊のオイルや自然植物から出来た化粧品などを皆さん買っていました。お買い物後、民族舞踊コンサートへ。中国や韓国の観光客も多く、ほぼ満席。ステージではモンゴルの神様を模した踊りや、馬頭琴で構成されたオーケストラの演奏、ホーミーの歌唱など様々な演目を見ることができました。

夕食はモンゴル風しゃぶしゃぶのお店へ。羊の他、牛や馬のお肉を、ハイテクなIH内蔵のテーブルにセットした1人ずつの小鍋でしゃぶしゃぶしていただきます。ボン酢やゴマだれ、ネギなどの薬味もあり、日本と変わらないクオリティでした。夕食後は再びスーパーマーケットでお買い物し、夜のスフバートル広場へ。広場は市の中心部で、日本人抑留者が建設した、政府庁舎やオペラ劇場、ハバロフスク市役所にそっくりなウランバートル市役所などが周辺に立ち並んでいます。広場の中心には革命家スフバートルの騎馬像があり、石畳は2日目に訪問したノゴーンノールの石切り場から切り出されたものとのことです。今日も1日目と同じフラワーホテルへ。23:00

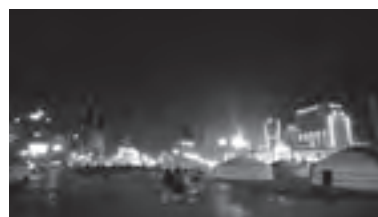
近くの解散となりました。



ウランバートル市内中心部
近代的な高層ビルが立ち並んでいます



昼のスフバートル広場
中央黒いビルの前の低い建物がウランバートル市役所でハバロフスク市役所とそっくり！



夜のスフバートル広場
22時だというのに子供たちが遊んでいます

4日目 5月6日(月)



手前が運転手のバット(バギー)さん
渋滞の中、夜遅くまで運転ありがとうございました



左がお世話になったガイドのニンジンさん
お別れの際に安藤理事長と

最終日は朝5時にホテルでサンドイッチを貰い、マイクロバスで空港へ。空港でバギーさん、ニンジンさんとお別れし、7:45発のOM501便で成田へ。13:40到着。

空港で解散式を行い4日間のスケジュールを無事に終えました。参加者の皆様、おつかれさまでした。

(報告 山本誠一郎)

新 理 事 の 紹 介

三度目の植林ツアーで再び堪能した偉大なる大自然と 海外渡航10か国目 モンゴル



佐 藤 巧 Sato TAKUMI

高校1,2年時に参加した2014年と2015年のハバロフスク行きツアー以来、今回は私にとって三度目の植林ツアーでした。NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会と私との関りは20年前まで遡ります。当時はまだ小学校入学前の5歳頃で鮮明な記憶はありませんが、星空キャンプに参加して長野県川上村の山奥に行き、夜中の山と真っ暗闇に怯えながら父と泊まった事だけは覚えています。5歳頃の星空キャンプ、15,16歳でのハバロフスク、そして今回25歳でのモンゴル。スタッフの皆様には毎度大変お世話になり、お陰様で素晴らしい経験をさせて頂いている事を心より感謝申し上げます。

初めて植林ツアーに参加したのは高校一年時の2014年でしたが、これには明確な目的がありました。私が通っていた中等教育学校では、18,000文字以上の卒業研究(卒業論文)提出が卒業の必須条件であり、過去の卒業生が残したものやネットですぐに検索できるような先行研究とは題材も内容も被ってはいけないという決まりがありました。中学三年時にこの卒研のテーマ決めて悩んでいたところ、植林ツアーに参加してそれを関連付けた研究テーマにしたら唯一無二ではないかと父に助言され、その言葉を信じてロシア行きと研究テーマを即決しました。幼少期から高校卒業まで続けたボーイスカウト活動の影響で山と自然環境については元々関心があり、二度参加したハバロフスク行きのツアーでは興味のある分野を楽しく学ぶことが出来ました。植林のために二度ロシアを訪れ、それをフィールドワークとする他の誰とも被らないオリジナリティと、日本人がロシアで植林をする理由などをまとめた内容は高い評価を受け、私は約28,000字で提出した論文を文化祭で発表しました。植林ツアーでのかけがえのない経験により、最後まで楽しく



日本人抑留者の石切り場跡地
今は子どもたちが遊ぶよう整備されています

論文を書くことが出来ました。

今回のモンゴル行きツアーは、短期間ながらとても濃い内容でした。かつて日本人抑留者が働いていた石切り場と、遠いモンゴルの大地に日本人が造りあげた現存する多くの重要建築物、そして祖国に帰れずモンゴルで生涯を終えたその日本人抑留者の慰霊碑を実際に訪れた時には、同じ日本人として心に刺さるものがありました。その他、中心地スフバートル広場やウランバートルの街並み、植樹をした二箇所や博物館など良い場所と思い出がたくさんありましたが、中でも私が印象に残っているのはテレルジ国立公園です。人生初のゲル泊は勿論、澄



暗闇の中のテレルジキャンプ

んだ空気の中で広大な大自然を堪能し、本物の遊牧民が住むゲルを訪問した経験はとても貴重でした。一気に観光地化が進んでいる国立公園ですが、岩山と青空、家畜・ゲルが作り出

す風景にはテレルジならではの美しさがあり、モンゴル国旗の意味にもなっている『この青空を守りたい』という感想を抱きました。夜は満点の星空が広がり、ライトアップされたゲルリゾートと大自然が織り成すコントラストは本当に素晴らしいものでした。私は今後もモンゴルでの植林活動を続けて微力でも自然保護に協力し、またあの素敵な場所に行きたいです。

10か国目の海外渡航、モンゴルは最高でした。この思い出は一生忘れません。今回参加を認めてくださったスタッフの皆様、綺麗な日本語で丁寧に通訳・ガイド・その他サポートをしてくださったニンジンさん、参加費を全額負担してくれた父、一緒に楽しませてくれた母、今回一緒にツアーに参加したメンバーの方々、本当にありがとうございました。私は25歳ながらまだまだ未熟な人間ですが、これからも宜しく願います。行けて良かったです！



乗馬体験

全ての議案は承認されましたので、(案)の文字は消されています。

議案第1号

2023年度 事業報告書

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハパロフスク協会

1 事業の成果

環境交流事業は、オンライン会議による環境セミナーを計画していたが、国際情勢の影響で実施することは出来なかった。また、ロシア向けに実施する事業は、新型コロナウイルスの完全な収束がみられず、都市におけるインフラ被害の拡大がみられたため中止とした。広報紙「フロンティア」の発行は1回行い、編集報告員はバフスクから受信した現地の写真や2021年に当協会が招待したシギヤマツラの苗木が育ち、満開になった様子をお知らせすることが出来た。

なお、次年度の事業となるが、モンゴルにおける植林活動について検討を行い、実施に結びつける準備活動を行った。

なお、次年度の事業となるが、モンゴルにおける植林活動について検討を行い、実施に結びつける準備活動を行った。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【86】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者人数	受益対象者人数	事業費(千円)
その他のこの法人の目的達成に必要な事業	広報紙「フロッダ」を発行して広く活動を紹介した。	2023.6.15		3人	協会会員 他一般市民	300人	86

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	事業費 (千円)

書式第13号(法第28条関係)

2023年度 活動計算書（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会
(単位:円)

(A) 経常収益計		金額	(単位:円)	小計・合計
1	受取金費 正会員受取会費 賛助会員受取会費	85,000 93,000		178,000
2	受取義捐金 受取寄附金 施設等受入評価益	0 0		0
3	受取助成金等 受取補助金	0		0
4	事業収益	0		0
5	その他の収益 受取利息 為替差益	0		0
経常収益計				178,000
(B) 経常費用				
1	事業費 (1) 人件費 給料手当 役員報酬 退職給付費用 福利厚生費	0 0 0 0		0
	(2) その他経費 通信運搬費 通訳翻訳費 消耗品費 印刷製本費 謝金	0 7,440 0 56,804 22,050		86,294
事業費計				86,294
2	管理費 (1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費	0 0 0 0		0
	(2) その他経費 通信運搬費 通訳翻訳費 消耗品費 印刷製本費 交際費 会議費 旅費交通費 手数料 為替差損	36,648 22,426 0 21,874 7,775 3,500 0 42,391 6,020		140,634
管理費計				140,634
経常費用計				226,928
当年度経常増減額 (A) - (B) . . . (1)				-48,928
(C) 経常外収益				
	前受会費 前受事業費	0 0		0
経常外収益計				0
(D) 経常外費用				
	前払事業費	0		0
経常外費用計				0
税引前当期経常増減額 (C) - (D) . . . (2)				-48,928
法人税、住民税及び事業税 . . . (3)				654,041
前期繰越当期経常額 . . . (4)				815,111
当期繰越当期経常額 (1) + (2) - (3) + (4) + (5)				815,111

書式第15号(法第28条関係)

2023年度 貸借対照表

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

(単位：円)

		科 目	金 額	(単位: 千円)	
【A】	資 産 の 部			小計・合計	
	1	流動資産			
		現金預金	332,098		
		ゆうちょ銀行普通預金	316,712		
		三菱UFJ銀行普通預金	1,837,089		
		前払モンゴル植林事業費	31,720		
		流動資産合計・・・①		2,517,619	
	2	固定資産			
		(1)有形固定資産			
		車両運搬具	0		
		什器備品	0		
		(2)無形固定資産			
		ソフトウェア	0		
		借地権	0		
		(3)投資その他の資産			
	敷金	0			
	長期貸付金	0			
	固定資産合計・・・②		0		
【A】	資 産 合 計 ①+②			2,517,619	
【B-1】	負 債 の 部				
	1	事業非流動負債			
		前受会費収入	125,000		
		前受モンゴル植林事業収入	1,777,500		
		流動負債合計・・・③		1,902,500	
	2	固定負債			
		長期借入金	0		
		退職給付引当金	0		
		固定負債合計・・・④		0	
	【B-1】	負 債 合 計 ③+④			1,902,500
	【B-2】	正 味 財 産 の 部			
			前期繰越正味財産額	664,047	
			当期正味財産増減額	-18,928	
			正 味 財 産 合 計	645,119	
	【B】	正 味 財 産 及 び 正 味 財 産			2,517,619

2023年度監査報告書

2003 年度「特定非営利活動法人 ひましの会・豊摩・パピラス研究会」

収入支出決算書および事業執行状況については、2024年4月27日に監査に付され、
 関係・債権者ならびに関係書類を併合した結果、決算の計算は正確なものと判
 り、また、事務は適法に執行されていることを認めます。

2024 年 4 月 27 日

2023年度年間役員名簿

（前事業年度において役員であったことがある会員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿）

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）
■各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

2 役員一覧

	役 名 どちらかに○	(フリガナ) 氏 名	住 所 又 は 居 所	前事業年度内の 就任期間	報酬を受けた期間 (該当者のみに記入)
1	理事・監事	アンドウ エミ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		安藤 栄美			
2	理事・監事	タケ ケイ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		田崎 桂子			
3	理事・監事	ヨダ カズキ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		依田 和也			
4	理事・監事	タケノ シンジ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		武川 俊二			
5	理事・監事	カンノ アキヒロ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		菅野 昭彦			
6	理事・監事	ヤマモト セイイチロウ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		山本誠一郎			
7	理事・監事	シラ カズマサ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		三浦 和真			
8	理事・監事	ウチノ カズナリ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		内田 彰			
9	理事・監事	オチアイ ワサビ		2023年 4月1日 ～ 2024年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
		落合 恒			

2024 年度新役員の選任について（案）

本年度は各役員の任期が2年ということで、議案第3号の役員が継続しますが、特定非営利活動法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会役員として、定款第14条第1項にしたがって、以下のものを新役員として選任します。
なお、新役員の任期は、定款 16 条第 2 項により、現任者の役員の任期の残存期間である令和7年7月6日とします。

変更年月日 変更事項	役 名	(フリガナ) 氏 名	住 所 又 は 居 所	備考 (現職)
2024年 5月18日新任	理事	サトウ ケイタキ 佐藤 巧		

※佐藤巧氏より、この総会において承認をいただければ、理事に就任する旨の承諾を得ています。

特定非営利活動法人
むさしの・多摩・ハバロフスク協会 顧問名簿

2024年度の「特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会」の顧問は、以下のとおりとします。

2024年5月18日現在

氏 名 就任日

顧 問 土 屋 正 忠 平成21年4月18日

顧 問 稲 葉 孝 彦 平成21年4月18日

顧 問 中 野 哲 夫 平成21年4月18日

顧 問 長 島 昭 平成23年6月26日

2024年度 活動予算書（案）（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

（単位：円）		
目	金額	小計・合計
【A】経 常 収 益		
1 受取会費 正会員受取会費 賛助会員受取会費	100,000 100,000	200,000 10,000
2 受取寄附金 受取寄附金 施設等受入評価益	10,000 0	10,000
3 受取助成金等 受取補助金	200,000	200,000
4 事業収益 その他この法人の目的達成に必要な事業収益(モンゴル植林ツアー) 森林の保全と自然環境に関する研究及び普及啓発事業収益(環境セミナー) その他のこの法人の目的達成に必要な事業収益(広報紙プロローダ)	2,600,000 0 0	2,600,000
5 その他の収益 受取利息	0	0
経 常 収 益 計		3,010,000
【B】経 常 費 用		
1 事業費 (1) 人件費 給料手当 役員報酬 退職給付費用 福利厚生費	0 0 0 0 0	0
(2) その他経費 会議費 旅費交通費 植林費用 食費 印刷製本費 通信運搬費 通訳翻訳費 消耗品費 謝金 保険料	0 2,600,000 100,000 10,000 150,000 6,000 20,000 4,000 10,000 50,000	2,950,000
事業費計		2,950,000
2 管理費 (1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費	0 0 0 0 0	0
(2) その他経費 消耗品費 印刷製本費 通信運搬費 会議費 支払い手数料 減価償却費	2,000 20,000 30,000 3,000 5,000	60,000
管理費計		60,000
経 常 費 用 計		3,010,000
当 期 経 常 増 減 額 【A】－【B】・・・(1)		0
【C】経 常 外 収 益		
固定資産売却益 繰上年度損益修正益		0
経 常 外 収 益 計		0
【D】経 常 外 費 用		
固定資産売却損 災害損失 繰上年度損益修正損	0 0 0	0
経 常 外 費 用 計		0
当 期 経 常 外 増 減 額 【C】－【D】・・・(2)		0
税 引 前 当 期 経 常 財 産 増 減 額 (1)+(2)・・・(3)		0
法人税、住民税及び事業税 前期繰越正味財産額・・・(4)		615,119
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 (3)-(4)+(5)		615,119

※なお、定款変更の届経後、2025年度の活動予算書ではモンゴルツアーは「ロシア並びに極東ユーラシア地域（モンゴルを含む）における寒帯林等の保全と国際協力事業」となります。

2024 年度 事 業 計 画 書（案）

特定非営利活動法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会

1 事業実施の方針

世界情勢の回復は未だ見込みが立たないため、ハバロフスクにおける植林事業は依然、難しい状況にある。そこで、ハバロフスクでつながった縁でモンゴル国・ウランバートルにおける植林事業を計画。第1回目は試験的なものになるが、武蔵野市に後援を受け、公募にて実施する。
例年通り、広報紙プロローダの発行は行い、新しい植林場所のレポートを行う。
また、世界情勢が安定し、ロシア太平洋国立大学からの連絡があった場合は、環境セミナーをオンライン会議で実施する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業（事業費の総費用【2950】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
その他この法人の目的達成に必要な事業	モンゴル国ウランバートルにおいて植林作業を行う(2024年は試験的実施)	2024.5.3～5.6	ウランバートル	4人	会員ほか広く一般市民	12	2800
森林の保全と自然環境保全に関する研究及び普及啓発事業	ロシア太平洋国立大学と共催でオンライン講演会(環境セミナー)を行う	2024.秋	オンライン等	5人	日本とロシアの環境に関心の方々	多数	30
その他この法人の目的達成に必要な事業	広報紙を発行して広く活動を紹介する	年間 1～2回		3人	会員ほか広く一般市民	500	120

※なお、定款変更の届経後、2025年度の事業計画書では、モンゴルにおける植林は「ロシア並びに極東ユーラシア地域（モンゴルを含む）における寒帯林等の保全と国際協力事業」となります。

(2) その他の事業（事業費の総費用【 】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)

2024年度総会にて定款の変更案も審議し承認されましたが、その定款案は東京都の審査を経て認証され、その後登記を行い、登記完了を東京都に報告して初めて定款としての効力が生じます。正式に認められた新定款は当協会ホームページに掲載いたしますが、ここでは新旧対照表のみ提示いたします。

＜定款新旧対照表＞

新	旧
第3条 この法人は、広く市民に対して社会教育の推進を図り、自然環境保全と国際協力に関する事業、及び子どもの健全育成を支援する事業を行う。そして、我が国及び隣国ロシア並びに極東ユーラシア地域（モンゴルを含む）における森林などの自然環境の維持・管理の機能を高め、市民への普及啓発に寄与し、自然環境保全並びに災害救援活動の推進を図ることを目的とする。	第3条 この法人は、広く市民に対して社会教育の推進を図り、自然環境保全と国際協力に関する事業、及び子どもの健全育成を支援する事業を行う。そして、我が国並びに隣国ロシアにおける森林などの自然環境の維持・管理の機能を高め、市民への普及啓発に寄与し、自然環境保全並びに災害救援活動の推進を図ることを目的とする。
第5条（1）④ 寒帯林等の保全を通じて社会教育の推進を図る事業	第5条（1）④ 寒帯林の保全を通じて社会教育の推進を図る事業
⑤ ロシア並びに極東ユーラシア地域（モンゴルを含む）における寒帯林等の保全と国際協力事業	⑤ ロシア極東における寒帯林の保全と国際協力事業
⑥ ロシア並びに極東ユーラシア地域（モンゴルを含む）の学術、文化、芸術等を普及啓発する事業	⑥ ロシアの学術、文化、芸術等を普及啓発する事業
附則 8 この定款の変更は、令和 年 月 日から施行する。	

ハバロフスクからの寄稿

《リスたちからの感謝》 チェルニコワ エレナ（現地コーディネータ）



チェルニコワ エレナさん

ボランティアの皆さんが毎回ハバロフスクを訪れるたびに、感じる事があります。それは、ロシアの地をより美しくするために木を植えるという重要な使命を果たしているということです。ボランティアの皆さんは全員、真の自然愛好家であり、その美しさと純粋さを昔も今もずっと大切にしています。何千本ものカラマツ、アカマツ、チョウセンゴヨウマツが州都の中心部や郊外などに植えられました。

私にとって最も記憶に残るのは、私がボランティアのグループと初めて会った時のことです。2009年に大ヘツィル自然保護区にチョウセンゴヨウマツの苗木を植えました。そして、この植林地が何であるかという、新しいチョウセンゴヨウマツ林の名前を示す花崗岩の石、記念碑の制作を依頼されました。石材を扱ういくつかの会社を回った後、私は「Spetsavtokhozyaystvo衛生清掃会社」という市営企業に決めました。その企業は独自の石材加工工場を持っており、作業料も他の業者よりはる

かに安かったです。記念碑のための石は市政府国際関係局の責任者とともに選びました。記念碑に刻む文章はむさしの・多摩・ハバロフスク協会から送られたもので、それを灰色の花崗岩に転写し、金箔で覆ってもらいました。業者の優れた技術や真面目なやり方のおかげで立派な記念碑ができました。

企業の人たちが植林場所に石を届けて、そのための台を作ってくれました。そして、ボランティアの皆さんが到着したときには、すでに「友好の森2」の誕生を記念して設置されていました。

その年に植えられたチョウセンゴヨウマツは現在大きく美しく成長し、以前に焼け野原になった森をきれいにしています。そこで種子が生まれ、それは地元のリスにとって大変喜ばしいことです。リスたちが、日本の緑の募金、むさしの・多摩・ハバロフスク協会、そして植樹に参加したボランティアの皆さんのおかげで餌を食べられることを知ったら、きっと皆様に拍手喝采したことでしょう。心を込めた善行はいつでも大歓迎だからです。



「友好の森2」の記念碑

プリローダ 第76号

＜編集後記＞

発行日 令和6年7月1日 発行 NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会
住所 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-15-25 TEL/FAX 0422-23-5351
E-mail mail@mtxa.org U R L https://mtxa.org/
発行人 安藤 栄美 編集 田崎 桂子
広報委員 山本誠一郎、木崎 剛、落合 恒、内田 彰、内田 央、内田 周、佐藤 巧
印刷 巧芸印刷株式会社

本年5月に、当協会顧問の中野哲夫氏が老衰のためご逝去されました。これまでのご厚情に感謝申し上げますとともに、衷心よりご冥福をお祈りいたします。